

PA の M -recursively Saturated Model について

筑波大学 坪井明人 (Akito Tsuboi)

C. Smorynski は [4] の中で Peano arithmetic の countable model の考察を行ない、いくつかの同型条件、埋蔵可能条件を与えている。同型の証明は通常、“back and forth argument”を用いるが、このためにはある種の“saturation”を model に仮定する必要がある。実際 [4] に於ても“recursive saturation”という概念を用いている。この“recursive saturation”は“ \aleph_1 -saturation”よりも明らかに弱い条件である。例えば、Peano arithmetic では countable な \aleph_1 -saturated model は存在しないが、recursively saturated model の存在は簡単に示される。

本稿に於ては、“recursive saturation”の一般化として“ M -recursive saturation” (M は通常、structure.) という概念を導入し、 M 上同型、 M 上埋蔵可能となる条件を与える。

以下に於て、PA とは countable language L によって構成された 1-st order Peano arithmetic で全ての formula に対する

inductionを含むものとする。 $M, N, N_i (i \in \omega)$ 等は PA の countable model を表わし、通常 M は $N, N_i (i \in \omega)$ 等の submodel とする。また、structure と structure の universe は常に同一視する。したがって $a_0, \dots, a_n \in M$ とは $a_0 \in |M| \& \dots \& a_n \in |M|$ の略記の事である。

定義 1. $M \subseteq N$ に対して、 N が M -recursively saturated であるとは、 $|HF_M|$ 上 Δ_1 である任意の type τ が N で realize されることである。(ここでもちろん M の元を parameter として含む formula は $|HF_M|$ の元で coding されている。)

定義 2. $M \subseteq N$ に対して、 N が M^S -recursively saturated であるとは、 $|HF_M|$ 上 Δ_1 である任意の short type τ (" $x < a$ " $\in \tau$ となっている type) が realize されることである。

定義 3. $M \subseteq N$ に対して、

$$Th_M(N) = \{ \varphi(c_{a_1}, \dots, c_{a_n}) : a_1, \dots, a_n \in M, N \models \varphi[a_1, \dots, a_n] \},$$

$$Th_M^{\Delta_0}(N) = \{ \varphi(c_{a_1}, \dots, c_{a_n}) : \varphi \text{ は quantifier bounded, } a_1, \dots, a_n \in M, N \models \varphi[a_1, \dots, a_n] \},$$

$$SS_M^{\Delta_0}(N) = \{ X \cap M : X \text{ は } N \text{ で parameter を持った quantifier bounded formula によって definable な } N \text{ の subset } \}.$$

定義 4. $A \subseteq N$ に対して、

$Df(N, A) = A$ からの parameter を用いて N で definable な N の element の全体。

以上の概念、表記を用いると定理は次の様に表現される。

定理 1. N_1, N_2 を M -recursively saturated model とし、 $Th_M(N_1) = Th_M(N_2)$ かつ $SS_M^{\Delta_0}(N_1) = SS_M^{\Delta_0}(N_2)$ とする。このとき、 N_1 と N_2 は M 上同型となる。(すなわち $\exists f: N_1 \cong N_2$ s.t. $f \upharpoonright M = id_M$.)

定理 2. N_1, N_2 を M の cofinal extension (M のどの元よりも大きい元は付け加わっていない extension) とし、ともに M^S -recursively saturated とする。さらに $Th_M^{\Delta_0}(N_1) = Th_M^{\Delta_0}(N_2)$ かつ $SS_M^{\Delta_0}(N_1) = SS_M^{\Delta_0}(N_2)$ が成り立てば、 N_1 と N_2 は M 上同型となる。

定理 3. N_1, N_2 を M -recursively saturated model とし、 $Th_M(N_1) = Th_M(N_2)$ かつ $SS_M^{\Delta_0}(N_1) = SS_M^{\Delta_0}(N_2)$ とする。さらに A を N_2 の definable な subset で $Df(N_2, M) \cap A = \emptyset$ を満すものとする。このとき $\exists f: N_1 \cong N_2$ s.t. $f \upharpoonright M = id_M$ & $\text{ran}(f) \cap A = \emptyset$ となる。

定理 4. $N \in M$ -recursively saturated model とする。このとき次の 2 条件は同値である。

- i) N は M の elementary extension である,
- ii) 各 $b \in N$ ($b > M$) に対して $\text{ran}(f) < b$, $f \upharpoonright M = id_M$ となる elementary embedding $f: N \cong N$ が存在する。

第 1 章: 準備

まづ IHF_M の導入及び M -recursiveness, M -recursive saturation 等の概念を正確に定義しよう。

定義 1.1 A を set とするとき.

$$HF_A(0) = \emptyset,$$

$$HF_A(n+1) = \mathcal{P}_{<\omega}(HF_A(n) \cup A) \quad (\mathcal{P}_{<\omega}(B): B \text{ の finite subset の全体.}),$$

$$HF_A = \bigcup_{m \in \omega} HF_A(m).$$

とする. $A = \emptyset$ のときは, 単に HF とかく. M が structure のときは, IHF_M は $\langle M; HF_M, \epsilon \rangle = \langle M \cup HF_M; M, HF_M, \epsilon \rangle$ なる structure を表わすものとする. さらに $IHF = \langle HF, \epsilon \rangle$ とする.

定義 1.2 $L \subseteq HF$ を finite language とし, M を L -structure とする. このとき $L(M)$ は L に各 $a \in M$ に対応する constant symbol $c_a = \langle a, \emptyset \rangle \in HF_M$ を付加して出来た language である

定義 1.3 $A \subseteq IHF_M$ が IHF_M の M -recursive subset であるとは A が IHF_M 上 Δ_1 であることである. すなわち適当な set theory の Δ_1 -formula Ψ に対して.

$$a \in A \iff IHF_M \models \Psi(a, \bar{b})$$

となることとする.

$L(M)^*$ を $L(M)$ から構成される formula の全体とすれば, 明らかに, $L(M)^*$ は IHF_M の M -recursive subset である. 実際 $L(M)$ は

$\exists y \in TC(x) [P^M(y) \wedge x = \langle y, \phi \rangle]$ で表現されるので、後は [I] の III と同様。

定義 1.4 $M \subseteq N, \bar{b} \in N, \tau(x, \bar{y}) \subseteq L(M)^*$ とするとき、

$\tau(x, \bar{b})$ が M -recursive type over N であるとは、

i) $\tau(x, \bar{y})$ は M -recursive,

ii) $\tau(x, \bar{b})$ は finitely satisfiable over N

となることとする。また全ての M -recursive type over N が N で realize されるとき、 N は M -recursively saturated であるという。

定理 1.5 $M \subseteq N$ に対して N の elementary extension N^* で M -recursively saturated となるものが存在する。

⊙ model の列 $\{N_i\}_{i < \omega}$ を次の条件

i) $N < N_i < N_j$ ($i < j$)

ii) $\tau(x, \bar{b})$ が N_i 上の M -recursive type ならば τ は N_{i+1} で realize される。

を満たす様に構成する。 $N_0 = N$ とする。 N_i まで構成されたとして N_{i+1} を作る。

$$\Gamma \equiv Th_{N_i}(N_i) \cup \bigcup \{ \tau_\alpha(c_\alpha, \bar{c}_\alpha) \mid \tau_\alpha(x, \bar{b}) \text{ は } M\text{-recursive type} \}$$

とすれば compactness より Γ は model を持つ。これを M_{i+1} とすればよい。最後に $N^* = \bigcup_{i < \omega} N_i$ とすれば、これが求める model。■

以上の議論は実は、PAの countable model に限定しなくても良かった。以下で PA に関係する議論をしよう。

定義 1.6 $M \subseteq N$ に対して.

- i) N は M の end extension $(M \subseteq_e N) \iff \forall b \in N [\exists a \in M (b < a) \Rightarrow b \in M]$. 拡大が elementary のときは $M <_e N$ とかく。
- ii) N は M の cofinal extension $(M \subseteq_c N) \iff \forall b \in N \exists a \in M [b < a]$. 拡大が elementary のときは $M <_c N$ とかく。

定義 1.7 $M \subseteq N$ に対して.

- i) N は M -short $\iff \exists b \in N \forall d \in N \exists e \in Df(N, M \cup \{b\}) [d < e]$.
- ii) type τ が short $\iff \exists b \in N ["x < c_b" \in \tau]$
- iii) N は M^s -recursively saturated $\iff N$ は全ての short M -recursive type を realize する。

定義 1.8 function $\tau_{*}^M : LCM^* \rightarrow M$ が LCM^* の coding function

であるとは、次の 2 条件を満たすときである：

- i) τ_{*}^M は 1 対 1、かつ M -recursive. (graph が M -recursive)
- ii) φ_0 が φ の subformula ならば $\tau_{\varphi_0}^M < \tau_{\varphi}^M$.

Coding function は存在する。またある意味で uniform にと

ることができる。実際、 $\ulcorner \varphi \wedge \psi \urcorner^M = \ulcorner \langle \wedge, \langle \varphi, \psi \rangle \rangle \urcorner^M = \ulcorner \langle \wedge \urcorner^M, \langle \ulcorner \varphi \urcorner^M, \ulcorner \psi \urcorner^M \rangle \rangle \urcorner^M$ 等で定義すればよい。ただし最初の \langle, \rangle は set theory の pairing function、すなわち $\langle x, y \rangle = \{\{x\}, \{x, y\}\}$ であり後の \langle, \rangle は PA における primitive recursive な pairing function である。後者の \langle, \rangle が HF_M に於て Δ_1 で表現できることは、Matjasevic の結果によれば良い。以上の考察のもとに、 $\ulcorner * \urcorner^M$ といちいちかかずに単に $\ulcorner * \urcorner$ とかく。($N_1 \subseteq N_2$ のとき $\ulcorner * \urcorner^{M_1} \subseteq \ulcorner * \urcorner^{M_2}$ とできるから。)

定義 1.9 $M \subseteq N, A \subseteq N, \Gamma \subseteq L(M)^*$ に対して、

$SS_M^\Gamma(N, A) = \{X \cap M : X \text{ は } A \text{ からの parameter を持った } \Gamma\text{-formula によって } N \text{ で definable な } N \text{ の subset}\}$,

$\Gamma = L(M)^*, A = N$ のときはそれぞれいちいちかかない。また $Y \subseteq L(M)^*$ に対して、

$$Y \in^* SS_M(N) \Leftrightarrow \textcircled{\ominus} Y^* \in SS_M(N) [Y = \{\varphi \in L(M)^* : \ulcorner \varphi \urcorner \in Y^*\}]$$

とする。

命題 1.10 $\textcircled{\ominus} b \in N [b > M] \Rightarrow SS_M(N) = SS_M^{\Delta_0}(N)$ 。

$\textcircled{\ominus} SS_M^{\Delta_0}(N) \subseteq SS_M(N)$ は定義から明らかだから逆を示す。

$X \in SS_M(N)$ とし。

$$\text{" } a \in X \Leftrightarrow N \models \varphi[a, \bar{b}] \text{" for } \textcircled{\ominus} a \in M$$

とする。 $N \models PA$ であるから、

$$N \models \forall y \exists z \forall w < y [w \in z \leftrightarrow \varphi(w, \bar{b})]$$

となる. ここで, " $w \in z$ " は z の binary expansion の中に 2^w があらわれることを示す formula. したがって適当な $d \in \mathbb{N}$ によって,

$$\begin{aligned} & \text{"} N \models \varphi[a, \bar{b}] \Leftrightarrow N \models a \in d \text{" for } \forall a < b \\ \therefore & \text{"} N \models \varphi[a, \bar{b}] \Leftrightarrow N \models \underbrace{a \in d}_{\Delta_0} \text{" for } \forall a \in M \quad \square \end{aligned}$$

定義 1.11 $M \subseteq \mathbb{N}$, $\Gamma \subseteq L(M)^*$ に対して,

- i) $Th_M(N) = \{ \varphi \in L(M)^* : N \models \varphi \}$
- ii) $Th_M^\Gamma(N) = \{ \varphi(c_{a_1}, \dots, c_{a_n}) : a_1, \dots, a_n \in M, \varphi \in \Gamma, N \models \varphi[a_1, \dots, a_n] \}$

定義 1.12 $\Gamma \subseteq L(M)^*$ に対して, $Tr_\Gamma(x, y)$ が M における Γ の truth definition であるとは,

" $M \models Tr_\Gamma[\ulcorner \varphi \urcorner, a] \leftrightarrow \varphi[(a)_1, \dots, (a)_n]$ " for $\forall \varphi \in \Gamma, \forall a \in M$.
が成り立つこととする. ここで $(x)_y$ は x の binary expansion の y 番目の index をあらわす.

$\Delta_0(M)$ は $L(M)^*$ の subset で "bounded quantifier のみを持つ formula 全体". $\Sigma_n(M)$ は $L(M)^*$ の subset で $\exists x_1, \forall x_2, \dots, Q_n x_n \varphi$ (φ は $\Delta_0(M)$ -formula) の形の formula 全体とする. このとき, 明らかに $\Sigma_n(M)$ に対しては Truth definition が存在する.

定義 1.13 $M \subseteq N_1, N_2$ に対して

i) partial function $f: N_1 \rightarrow N_2$ が partial elementary embedding であるとは " $N_1 \models \varphi[\bar{a}] \Rightarrow N_2 \models \varphi[f\bar{a}]$ " for $\varphi, \bar{a} \in \text{dom}(f)$ が成り立つことである.

ii) $\text{Emb}(N_1, N_2; M) = \{f: N_1 \rightarrow N_2 \mid f \text{ は elementary embedding であり } f \upharpoonright M = \text{id}_M\}$, $P\text{-Emb}(N_1, N_2; M) = \{f: N_1 \rightarrow N_2 \mid f \text{ は partial elementary embedding であり } f \upharpoonright M = \text{id}_M, \text{ さらに } \text{dom}(f) - M \text{ は有限個}\}$
 $\text{Isom}(N_1, N_2; M) = \{f: N_1 \rightarrow N_2 \mid f \text{ は isomorphism であり } f \upharpoonright M = \text{id}_M\}$.

次の二つの定理はともに Splitting Theorem と呼ばれている.

定理 1.14 (Elementary Splitting Theorem: Folklore?)

$$M < N \Rightarrow \textcircled{\ominus} N^* \text{ s.t. } M <_c N^* <_e N.$$

$\textcircled{\ominus} N^* = \{a \in N \mid \textcircled{\ominus} b \in M \text{ s.t. } a < b\}$ とすれば, $M \subseteq_c N^* \subseteq_e N$ は明らか. $a \in N^*$ として $N \models \exists x \varphi(x, a)$ とする. $b \in M$ を $a < b$ なるもの とすれば

$$N \models \forall y < b \exists z [(\exists x \varphi(x, y) \rightarrow \varphi(z, y)) \wedge (\neg \exists x \varphi(x, y) \rightarrow z = 0)]$$

$$\therefore M \models \forall y < b \exists z [(\exists x \varphi(x, y) \rightarrow \varphi(z, y)) \wedge (\neg \exists x \varphi(x, y) \rightarrow z = 0)]$$

$$\therefore M \models \forall y < b \exists z < d [(\exists x \varphi(x, y) \rightarrow \varphi(z, y)) \wedge (\neg \exists x \varphi(x, y) \rightarrow z = 0)]$$

$$\therefore N \models \exists z < d \varphi(z, a) \quad (\text{上の式の } y \text{ を } a \text{ とする.})$$

$$\therefore N \models \varphi(e, a) \quad \text{for some } e \in N^* \quad \square$$

定理 1.15 (General Splitting Theorem: Gaifman)

N が M の Δ_0 -elementary extension のとき.

$$\textcircled{3} N^* \text{ s.t. } M <_c N^* \subseteq_e N.$$

上の定理の証明は [] を参照されたい. 第2象で、General Splitting Theorem に関連した定理を述べる. 尚、最近 General Splitting Theorem を証明論的に解析し、一般化した結果を本橋信義氏が得ている.

第2象: 同型定理

補題 2.1 N が M -recursively saturated のとき、 N は全ての type $\tau(x, \bar{b})$ ($\tau(x, \bar{y}) \in {}^*SS_M(N)$) を realize する.

補題 2.2 N が M^S -recursively saturated のとき、 N は全ての short type $\tau(x, \bar{b})$ ($\tau(x, \bar{y}) \in {}^*SS_M(N)$) を realize する.

⊙ 証明はどちらも同様である. 2.2 を示す. $\tau \in {}^*SS_M(N)$ より、適当な formula χ により

$$" \varphi \in \chi \Leftrightarrow N \models \chi(\ulcorner \varphi \urcorner) " \text{ for } \textcircled{4} \varphi \in L(M)^*$$

この χ を用いて short type τ_0 を

$$\tau_0 = \{x < b\} \cup \{ \chi(\ulcorner \varphi \urcorner) \rightarrow \varphi(x) : \varphi \in L(M)^* \}$$

("x < b" $\in \tau$ とする)

で定めれば τ_0 は M -recursive. したがって $\textcircled{3} d$ によって real-

ize される. この d が同時に τ を realize する. \square

定理 2.3 N_1, N_2 を M -recursively saturated model とする. このとき次の 3 条件は同値である

- i) $\text{Isom}(N_1, N_2; M) \neq \emptyset$,
- ii) $\text{Th}_M(N_1) = \text{Th}_M(N_2)$ かつ $\text{SS}_M(N_1) = \text{SS}_M(N_2)$,
- iii) $\text{Th}_M(N_1) = \text{Th}_M(N_2)$ かつ $\text{SS}_M^{\Delta_0}(N_1) = \text{SS}_M^{\Delta_0}(N_2)$.

ii) \Rightarrow iii) は命題 1.10 より明らか. iii) \Rightarrow i) は補題 2.1 を用いて "back and forth argument" により同型写像を構成する. 証明は以下の定理 2. と同様であるから省略する. 尚、定理 2.3 に於て M -recursively saturated を M^S -recursively saturated に弱めると同値性はくずれる. 実際、もっと強く ii) 及び iii) が成り立つが同型にならない N_1, N_2 が存在する (M 上同型の条件を除いても.) この様な N_1, N_2 の存在は次のように示される. (構成) 与えられた M に対して M -recursively saturated elementary extension $N \succ M$ をとる.

$$\mathcal{X} = \{ \langle F_i, G_i \rangle : N \models \forall x \exists y \forall z \langle x \neq z \wedge y \neq z \rangle (F_i(z) \neq x \wedge G_i(z) \neq x) \}$$

とすればこれは M -recursive subset of ω . この \mathcal{X} からさらに $\{ \varphi_i \}_{i \in \omega}, \{ \psi_i \}_{i \in \omega}$ を $\models \varphi_{i+1} \rightarrow \varphi_i, \models \psi_{i+1} \rightarrow \psi_i$ で

$$\{ F_i a \mid N \models \varphi_i[a] \} \cap \{ G_i a \mid N \models \psi_i[a] \} = \emptyset,$$

$$N \models \forall x \exists y > x \varphi_i(x) \ \& \ N \models \forall x \exists y > x \psi_i(x).$$

が成り立つものとする。 $\{\varphi_i(x)\}_{i \in \omega}$, $\{\psi_i(x)\}_{i \in \omega}$ は M -recursive type となり、その realization を $a, b \in N$ とすれば、

$$N_1 = \{d \in N \mid d \text{ is less than some } e \in Df(N, M \cup \{a\})\}$$

$$N_2 = \{d \in N \mid d \text{ is less than some } e \in Df(N, M \cup \{b\})\}$$

が求めるものである。この二つが \exists 非同型なることは Theorem 3.9 [] を参照されたい。また N_1, N_2 が M^S -recursively saturated なることは、 $N_2 < N$ なることからわかる。

上の N_1, N_2 の存在にもかかわらず次の定理が成り立つ。

定理 2.4 N_1, N_2 は M^S -recursively saturated としても M の cofinal extension とする。このとき次の3条件は同値である。

- i) $\text{Isom}(N_1, N_2; M) \neq \emptyset$,
- ii) $\text{Th}_M(N_1) = \text{Th}_M(N_2)$ か $\text{SS}_M(N_1) = \text{SS}_M(N_2)$,
- iii) $\text{Th}_M^{\Delta_0}(N_1) = \text{Th}_M^{\Delta_0}(N_2)$ か $\text{SS}_M^{\Delta_0}(N_1) = \text{SS}_M^{\Delta_0}(N_2)$.

☺ iii) \Rightarrow i) のみを示す。 $N_1 - M = \{b_i\}_{i \in \omega}$, $N_2 - M = \{d_i\}_{i \in \omega}$

とし partial isomorphism の列 $\{f_n\}_{n \in \omega}$ を

$$a) \ f_n \subseteq f_{n+1}, \ \text{dom}(f_n) \supseteq M \cup \{b_i\}_{i < n}, \ \text{ran}(f_n) \supseteq M \cup \{d_i\}_{i < n}$$

$$b) \ N_1 \models \varphi[\bar{e}] \Rightarrow N_2 \models \varphi[\bar{f}_n(\bar{e})] \quad \text{for } \textcircled{\ominus} \varphi \in \Delta_0(M), \ \bar{e} \in \text{dom}(f_n).$$

となるようにつくる。

(構成) $f_0 = \text{id}_M$ とし、 f_n まで構成されたとしよう。 $\bar{b} = \text{dom}(f_n) - M$ とし、

$$\tau(x, \bar{y}) = \{ \varphi \in \Delta_0(M) : N_1 \models \varphi(b_n, \bar{b}) \}$$

とすれば、 τ は $\Delta_0(M)$ の truth definition $\text{Tr}_0(x, y)$ によって

$$\tau(x, \bar{y}) = \{ \varphi \in \Delta_0(M) : N_1 \models \text{Tr}_0[\ulcorner \varphi \urcorner, \langle b_n, \bar{b} \rangle] \}$$

とかけらるから $\tau \in {}^* \text{SS}_M^{\Delta_0}(N_1)$ 。また $a \in M$ を $b_n < a$, $\varphi_0 \dots \varphi_p \in \tau$ とすれば

$$N_1 \models \exists x < a \bigwedge_{i \leq p} \varphi_i[x, \bar{b}]$$

$$\therefore N_2 \models \exists x < a \bigwedge_{i \leq p} \varphi_i[x, \bar{f}_n(\bar{b})]$$

これは short type $\tau(x, \bar{f}_n(\bar{b}))$ が N_2 で finitely satisfiable なることをしめす。この realization の 1 つを $d^* \in N_2$ とする。上と同様の構成により d_n に対して $b^* \in N_1$ をとれば $f_{n+1} = f_n \cup \{ \langle b_n, d^* \rangle \} \cup \{ \langle b^*, d_n \rangle \}$ が a), b) を満す。最後に $f = \bigcup_{n < \omega} f_n$ とすれば、これが求める M 上同型写像となる。 \square

次にこの同型定理を用いて 1 つの面白い結果を述べる。

定理 2.5 N_1, N_2 を M の cofinal extension とする。このとき、

$$\text{Th}_M^{\Delta_0}(N_1) = \text{Th}_M^{\Delta_0}(N_2) \Rightarrow \text{Th}_M(N_1) = \text{Th}_M(N_2)$$

☺ elementary chain construction により N_1^*, N_2^* を

$$a) N_1 <_c N_1^*, N_2 <_c N_2^*$$

b) N_1^*, N_2^* はともに M^S -recursively saturated,

c) $SS_M^{\Delta_0}(N_1^*) = SS_M^{\Delta_0}(N_2^*)$.

となるようにつくる. このとき定理 2.4 により,

$$\exists f: N_1^* \rightarrow N_2^* \text{ s.t. } f \upharpoonright M = \text{id}_M.$$

しかるにこれは $Th_M(N_1) = Th_M(N_2)$ を示す. \square

General Splitting Theorem の証明を見ると.

$$M \prec_{\Delta_0} \mathcal{M}, M \subseteq_c \mathcal{M} \Rightarrow M \prec \mathcal{M} \quad (\because \mathcal{M} \models PA)$$

となる. これから特に

$$M \subseteq_c \mathcal{M}_i, M \prec_{\Delta_0} \mathcal{M}_i \quad (i=1, 2) \Rightarrow Th_M(\mathcal{M}_1) = Th_M(\mathcal{M}_2)$$

となるが, 上の定理は $\mathcal{M}_i \models PA$ を仮定に付け加え, $M \prec_{\Delta_0} \mathcal{M}_i$ を弱めたことになる.

第3象: 埋蔵可能性定理

定理 3.1 N_1, N_2 を M -recursively saturated elementary extension で $SS_M(N_1) \subseteq SS_M(N_2)$ が成り立つ model とする. $A \subseteq N_2 - M$ を definable subset とするとき, 各 $f \in P\text{-Emb}(N_1, N_2; M)$ ($Df(N_2, \text{ran}(f)) \cap A = \emptyset$) と各 $b \in N_1$ に対して, $f^* \supseteq f$ で

$$f^* \in P\text{-Emb}(N_1, N_2; M),$$

$$\text{dom}(f^*) = \text{dom}(f) \cup \{b\},$$

$$Df(N_2, \text{ran}(f^*) \cap A) = \emptyset.$$

となるものが存在する.

$$\textcircled{\text{D}} \text{ dom}(f) = M \cup \bar{b} \text{ とし,}$$

$$\tau(x, \bar{y}) = \{ \varphi(x, \bar{y}) \in L(M)^* : N_1 \models \varphi[b, \bar{b}] \}$$

とする. 各 $\tau_0 \ll \tau$ に対して

$$N_1 \models \exists x \wedge \tau_0(x, \bar{b})$$

$$\therefore N_2 \models \exists x \wedge \tau_0(x, \bar{f}\bar{b})$$

さらに F_1, \dots, F_m を $L(M)$ -formula に対する Skolem function (PA τ は μ -operator が definable だから Skolem function も definable) とする.

α を A の N_2 での defining formula とする. このとき

$$N_2 \models \exists x (\bigwedge \tau \alpha(F_i(x, \bar{f}\bar{b})) \wedge \bigwedge \tau_0(x, \bar{f}\bar{b}))$$

が成り立つ. これは $\tau(x, \bar{f}\bar{b}) \cup \{ \tau \alpha(F(x, \bar{f}\bar{b})) : F \text{ は } L(M)\text{-Skolem} \}$

が N_2 で finitely satisfiable を示す. この realization を d として

$$f^* = f \cup \{ \langle b, d \rangle \}$$

とすればよい. \square

定理 3.2 N_1, N_2 を M の M -recursively saturated elementary extension とし, $A \subseteq N_2$ を $Df(N_2, M) \cap A = \emptyset$ なる definable set とする. このとき $f \in \text{Emb}(N_1, N_2; M)$ で $Df(N_2, \text{ran}(f)) \cap A = \emptyset$ となるものが存在する.

$$\textcircled{\text{D}} N_2 - M = \{ b_i : i \in \omega \} \text{ とし, } \{ f_n \}_{n \in \omega} \subseteq P\text{-Emb}(N_1, N_2; M) \text{ を}$$

$$a) \text{ dom}(f_n) = M \cup \{ b_i : i < n \},$$

$$b) Df(N_2, \text{ran}(f_n)) \cap A = \emptyset$$

となるように帰納的に構成する。 $f_0 = \text{id}_M$ とし、 f_n まで作られたとする。このとき定理 3.1 により、 $f_{n+1} \in P\text{-Emb}(N_1, N_2; M)$ で $\text{dom}(f_{n+1}) = \text{dom}(f_n) \cup \{b_n\}$ かつ $Df(N_2, \text{ran}(f_{n+1})) \cap A = \emptyset$ なるものが存在する。最後に $f = \bigcup_{n < \omega} f_n$ とすればよい。 \square

定理 3.3 $N \in M \triangleleft_{\Delta_0} N$ で M -recursively saturated とする。このとき次の 2 条件は同値である。

$$i) M < N,$$

$$ii) \textcircled{+} b > M \textcircled{+} f \in \text{Emb}(N, N; M) \text{ s.t. } \text{ran}(f) < b.$$

$\textcircled{+}$ 定理 3.2 は $i) \Rightarrow ii)$ をしめす。 $ii) \Rightarrow i)$ をしめそう。 N が M の elementary extension でなかったと仮定する。このとき $b \in Df(N, M)$ かつ $b > M$ なる element の存在を言えばよい。実際 $\text{ran}(f) < b$ とすることは不可能。したがってこのような b が存在しないと仮定して矛盾を出す。

$$M \triangleleft_{\Delta_0} N \text{ かつ } Df(N, M) < N$$

が成り立つから

$$M \triangleleft_{\Delta_0} Df(N, M) \text{ かつ } M \subseteq_c Df(N, M)$$

P-14 の remark から $M < Df(N, M) < N$ を得る。これは矛盾である。 \square

上の定理は次の D. Lipschitz の定理とよく似ている。

定理 3.4 (D. Lipshitz) $L = \{0, 1, +, \cdot\}$ とし $N \in L$ で formulate された PA の model とする. このとき次の 2 条件は同値である.

i) N は Diophantine correct. (すなわち、 ω で解ける Diophantine equation と M でのそれとが一致する.),

ii) $\forall b > \omega \exists N' \in_e N$ s.t. $N' \cong N$.

☺ 証明は Matijasevic の結果を使えば簡単である. ▣

定理 3.4 では model の saturation を仮定していないが、これは、 Δ_0 -formula に対する truth definition があるので、Overspill Lemma を使えば saturation (Δ_0 -saturation) が示されるためである.

補題 3.5 $N \in M$ -recursively saturated とし、 $b, d \in N$ を $M < b < d$ か $\neg \text{Df}(N, M \cup \bar{e}) \cap [b, d] = \emptyset$ なる 2 つの元とする. このとき、 $\text{Df}(N, M \cup \bar{e} \cup \{e\}) \cap [b, d] = \emptyset$ なる e を任意に大きくとることができる.

☺ 与えられた $e^* \in N$ に対して、

$$\tau(x) = \{ \neg (b < F(x, \bar{e}) < d) \mid F \text{ は } L(M)\text{-Skolem} \} \\ \cup \{ x > e^* \}$$

$\tau(x)$ が N 上の type であることを示せば十分。実際 τ の realization e が求まるものとなる。そこで τ が finitely satisfiable でないと仮定する。このとき、適当に $L(M)$ -Skolem function F_1, \dots, F_n をとれば、

$$N \models \forall x > e^* \left(\bigvee_{k=1}^n (b < F_k(x, \bar{e}) < d) \right) \quad \text{----- (1)}$$

ここで、

$$\begin{aligned} \tau^*(u, v) = & \{ a < u < v < b : a \in M \} \\ & \cup \{ \neg (u < F(\bar{e}) < v) : F \text{ は } L(M)\text{-Skolem} \} \\ & \cup \{ \exists y \forall x > y \left(\bigvee_{k=1}^n (u < F_k(x, \bar{e}) < v) \right) \} \end{aligned}$$

とすると、

(主張) τ^* は M -recursive type である。

与えられた $a \in M$, $F^1(\bar{e}), F^2(\bar{e}), \dots, F^m(\bar{e})$ に対して (1) と仮定から、

$$\begin{aligned} N \models \exists u > a \exists v > a [\exists y \forall x > y \left(\bigvee_{k=1}^n (u < F_k(x, \bar{e}) < v) \right) \\ \wedge \neg (u < F(\bar{e}) < v)] \end{aligned}$$

が成り立つ。 v のうち最小のもの (これは definable) をとれば d 以下となるが、 $Df(N_2, M \cup \bar{e}) \cap [b, d] = \emptyset$ より b 未満となる。これは τ^* が finitely satisfiable をしめす。(主張終)

τ^* の realization を $\langle b_i, d_i \rangle$ とする。上の construction をつづければ列 $\{ \langle b_i, d_i \rangle \}_{i \in \omega}$ を

$$a) \quad M < b_{i+1} < d_{i+1} < b_i,$$

$$b) N \models \exists y \forall x > y \left(\bigvee_{k=1}^m (b_k < F_k(x, \bar{e}) < d_k) \right)$$

となるようにつくることができる。しかるにこれは明らかに矛盾である。この矛盾は T が finitely satisfiable をしめす。□

定理 3.6 N を M -recursively saturated とし、 $M < b < d$ とする。もし $Df(N, M) \cap [b, d] = \emptyset$ ならば、次の 2 条件を満たす $f \in \text{Emb}(N, N; M)$ が存在する:

$$i) \text{ran}(f) \cap [b, d] = \emptyset$$

$$ii) \text{ran}(f) \text{ is cofinal with } N$$

⊙ $N - M = \{b_i\}_{i \in \omega}$ とし、 $f_n \in P\text{-Emb}(N, N; M)$ を

$$a) f_n \subseteq f_{n+1}, \text{dom}(f_{2n}) \supseteq M \cup \{b_i\}_{i < n},$$

$$b) Df(N, \text{ran}(f_n)) \cap [b, d] = \emptyset,$$

$$c) \exists e \in \text{ran}(f_{2n+1}) \text{ s.t. } e > b_n.$$

となるように構成する。偶数段階は今までと同様、奇数段階は次のようにする。上の補題から、 $e > b_n$ で $Df(N, \text{ran}(f_{2n}) \cup \{e\}) \cap [b, d] = \emptyset$ となる e が存在する。この e の逆像は今までと同様に決まる。これを e^* とすれば $f_{2n+1} = f_{2n} \cup \{ \langle e^*, e \rangle \}$ 。最後に $f = \bigcup_{n \in \omega} f_n$ とすればよい。□

[Reference]

[1] J. Barwise: Admissible sets and structures, Springer-

- Verlag, Berlin (1975)

- [2] H. Friedman : Countable models of set theories, Cambridge Summer School in Mathematical Logic, Lecture Notes in Mathematics, Springer-Verlag, Berlin (1972) 539-537.
- [3] D. Lipshitz : Diophantine correct models of arithmetic, Proc. A.M.S vol 73 (1979), 107-108.
- [4] C. Smorynski : Recursively saturated nonstandard models of arithmetic, J.S.L. vol 46 (1981), 259-286.
- [5] A. Tsuboi : On M -recursively saturated models of arithmetic, Tsukuba Journal vol 14 (1982), 245-268.